

## 第4回 自律移動支援プロジェクト推進委員会

### 議事概要

1. 日 時：平成17年12月6日（火） 10:00～12:00

2. 場 所：全日空ホテル B1F プロミネンス

#### 3. 議事次第

1. 開 会
2. 挨拶
3. 議 事
  - (1) 第3回委員会の議事概要（案）
  - (2) これまでの活動経緯
  - (3) 坂村委員長所感
  - (4) 討議事項
    - ・自律移動支援システム仕様書の作成について
    - ・今後のスケジュールについて
  - (5) 質疑
  - (6) その他
4. 閉 会

#### 4. 議 事：

##### ■国土交通省技監挨拶

- ・平成17年度に実施した、神戸、万博および東京都での実験結果をご紹介するとともに、年度末に策定予定の技術仕様書の基本的な考え方を提案させていただく。これら一連の取り組みを経て、日本発の世界への発信が可能となるよう推進を図る。

##### ■委員長挨拶

- ・会を重ねる度に民間サポーターや自治体サポーターが増えていることに大変感謝している。日本の国土基盤の電子化に対して参画を頂き、支持していただいていることに感謝している。

##### ■各地域での実証実験について

###### 【委員長】

- ・コンテンツをどう作るのかということに対して、地道な検証が重要。コンテンツ作成の初期段階から障害のある方に積極的に参画していただき、モニター数を増やすことにより、その知見を蓄えていくことが必要。
- ・多くの機器を整備してきたが、それらの適切なメンテナンス方法、経費等についても実証実験を継続していくべき。
- ・技術仕様書については、民間の競争を促す部分、標準化を図る部分といった境界点に関する議論を十分に行うことが重要。各地域での実証実験の結果を最大限に利用して、これらが反映された仕様書となることを期待している。
- ・万博や上野では、多くの外国人の方にも体験いただき、外国からの関心も非常に高いということを感じている。技術的な問い合わせも非常に多くなってきており、外国への日本

独自の技術の貢献と言うことも、着実に進んでいると考える。

- ・様々な技術開発だけでなく、利用者に対して誤解のない広報活動、社会制度の設計等が重要な局面に入ってきた。
- ・各地域で多様なユーザーに体験いただいたことにより、ucode、uID アーキテクチャに基づいた同じインフラを使って、障害者の方にも、高齢者の方などにも役立つというような多角的な展開方法が少し見えてきたのではないかと考えている。

## ■プロジェクト全体の進め方について

### 【大石プロジェクト顧問】

- ・これまで以上により多くの方々に本プロジェクトに参画していただくために、実証実験などの活動に、分かりやすい名前を付けるなど工夫ができないか。
- ・さらなる国民的関心を引き起こすような、プロジェクトのスケジュールとは違うスケジュールがもう一つあってもいいのではないか。

### 【月尾プロジェクト顧問】

- ・あくまでも実証実験なので、その目的は様々な範囲をカバーした方が良い。日本全体をユビキタスに覆うためには、どういう範囲の実験をやればいいのかという大きなプログラムが必要。
- ・技術仕様書は、かなりフレキシブルに変更が可能な手順が必要。何は変えないで、何は変えるかという大きな哲学と、変えていくときの手順を明確にすることが必要。
- ・システムを普及させる上では、国土の脆弱性にどう対抗するかをある程度想定しておく必要がある。情報システムで国土をカバーしたときに、脆弱性をどう無くしていくかということも、全体システム設計の中で検討しておくことが必要。
- ・日本発の国際標準にしていく上での手順・戦略が必要。

### 【川嶋委員】

- ・ソフトウェアに関する仕様書は、UMLの表現方法を活用すべき。国がオブジェクト指向でステークホルダーとシステムの順番を明確にしておけば、今後、調達などの際にも役に立つと考える。
- ・今後、ucode が使用されるが、社会資本を整備するためには、将来の汎用性や他国との関連も考慮しながら、他のコード体系も使用できるような枠組みを設定しておいた方が良いのではないか。
- ・ID の設定方法に余裕を持たせておいた方が、後々スムーズになり、強固な基盤が形成されると考える。

### 【後藤委員】

- ・今後、全国的に展開する上で、さらに民学産公の立場からの協働、コラボレーションを進めていく必要がある。それぞれの立場で、何を行っていくべきなのか、どういう役割を果たすべきなのかをより明確にしていくことが必要。
- ・これまでのように、国が決めて、地方公共団体が実施するというようなスキームだけで

はうまく回っていかない。そこに利用者の視点を貫き、制度設計を進めていただきたい。

- ・今後の事業展開にあたっては、イニシャルコストやランニングコスト等、どこがどのように負担するするのか明確にすることが必要。
- ・これまでの実証実験の結果から、どんな問題があって、どう解決されたのか、あるいは、これからどう解決していくのかということが、広く公開されるべきではないか。
- ・システムトラブル等があった場合の事前の影響評価を確実に行うことが大事。
- ・個人情報保護に関してのポリシー策定や、あるいは、具体的な保護措置等についても、整備や検討が必要。

#### 【竹中委員】

- ・このプロジェクトは、障害者のために存在するのではなくて、障害を持つ人たち自身が、社会のために様々にその力を活かしていただければ、そして、社会の支え手にもなっていただくとすることを目的にしています。
- ・すべての人が、その人の持つ潜在的な能力をすべて世の中に発揮して、そして、支え合って社会を構築していくという、ユニバーサル社会へ向けての非常に大きな一つのプロジェクトであると思っている。これがこういうふうに進んでいることを感謝している。

#### 【長谷川（貞）委員】

- ・駅ホームのエスカレーターへの誘導用ブロックでの案内がない。エスカレーターも重要なところですので、それを積極的に教えるということをしていただきたい。
- ・ホームへの誘導用ブロックとトイレへの誘導用ブロックが全く同じでは困る。現状の誘導用ブロックのJIS規格の中で、ホームとトイレを区別する敷き方が可能だと思う。男子トイレも女子トイレも、誘導用ブロックをちょっと工夫すれば区別できるはず。
- ・道路の総延長に対して、誘導用ブロックが敷設されている延長は限られているため、道路の縁石にICタグを埋めて、道路管理や視覚障害者の移動支援に利用できるような道路計画をすすめていただけたらありがたい。
- ・音声での情報提供を補完するために、体表点字が良いのではないかと思う。具体的提案としては、音声のみではなく、振動を是非取り入れていただけないか。体表点字という概念、研究は、国際的にはまだ全くないので、国際的に通用するものになるのではないかと思う。

#### 【長谷川（洋）委員】

- ・各地域で実証実験が行われているが、聴覚障害者を対象としたモニター実験が実施されていないのは残念。
- ・聴覚障害者の場合、文字情報には弱くても図形的な情報だと非常によく分かるとか、あるいは、場合によっては、手話の情報が欲しいという声も多分あると思うので、ぜひ一度モニターをやっていただきたい。
- ・神戸空港での実証実験には大変期待しており、変更情報案内サービスなど、これらのサービスを通じて、聴覚障害者には振動などで知らせ、すぐ情報が伝わるということが可能になるのではないかと期待している。

- ・行く行くは、車と人間との関係にまで進んでいくことを期待している。

#### 【佐々木委員（警察庁）】

- ・警察庁では、歩行者等支援情報通信システム（P I C S）を推進している。
- ・P I C Sのインフラ等を本プロジェクトの携帯端末と協調させ、連携を図ることが可能だと考えている。
- ・今後、横浜市のJ R磯子駅近辺において、自律移動支援システムと連携した実証実験を行う予定。
- ・P I C Sは、本年11月末現在で30の都道府県で運用しており、このうち自律移動支援システムとの連携が可能なシステムは、17の都道府県で導入されている。磯子区での実証実験が成功すれば、17都道府県でも利用可能となるので、大変期待している。

#### 【森委員（総務省）】

- ・総務省では、研究開発として、平成15年度より超小型のチップネットワーク技術の開発を行っている。また、ユビキタスI T Sとして、電子タグを用いた歩行者I T SをY R Pで研究開発している。
- ・高精度な多言語の音声提供サービスが可能となるよう、多言語自動翻訳システムの研究開発も進めている。
- ・平成17年度からは、周辺環境をセンサーが認識して、自律的な情報の流通実現を目指したユビキタスセンサーネットワークの研究開発を行っている。
- ・来年1月には、神戸市においてネットワークロボットの実証実験を実施予定。
- ・制度関係としては、6～7年前から、FMラジオを仕様変更し低コストで音声情報を提供するアシストシステムを実用化している。
- ・電子タグの制度化にも取り組んでおり、長距離のタグ認識が可能な950MHz帯を4月に1次導入し、より高度なシステムを電波監理審議会に諮りながら、制度化を目指している。
- ・無線インターフェイスの部分で信頼性を確保するためには、インターフェイスの仕様が影響するため、国土交通省と連携を図っていきたい。
- ・電波の標準化については、総務省でもI T Uへの働きかけを重点的に取り組んでいく。

#### 【長田委員（厚生労働省）】

- ・厚生労働省では、今年度、障害者自立支援法を成立させていただき、地域で障害者が自立して暮らしていくという動きを前進させている。その中でも、障害者の移動支援については、非常に重要なことと考えている。
- ・全ての人の移動支援という観点から、複数の障害を同時にお持ちの方々や、知的障害者等についても意識して対応していただきたい。

#### 【影山委員（農林水産省）】

- ・農林水産省では、ユビキタス食の安全・安心システムの開発・導入ということで、現在、実証実験を展開している。特に、卸売市場の取引を中心に、食品流通の効率化等にI Cタグを活用して取り組んでいる。
- ・今後については、場所情報の活用について連携の検討を進めていきたい。

### 【堀口委員（経済産業省）】

- ・経済産業省では、障害者等の移動支援に特化した機器の開発を実施。GPS、FMの電波や誘導用ブロックからのRFIDの読み込み、赤外線受信という形で、複数の情報インフラ間をシームレスに繋ぎながら情報を取得し、移動できる携帯端末を研究開発する事業に取り組んでいる。
- ・愛知万博で実証実験を行い、視覚障害者、聴覚障害者、車いす使用者、高齢者の方々など200名以上の方に体験いただいた。坂村委員長の発言があったように、障害者等のモニター数を増加し、知見を蓄積する上でも、この実証実験で得たデータの活用など連携していければと考えている。

### 【奈良県】

- ・奈良県では、平成22年に平城遷都1300年記念事業を実施予定。
- ・ユビキタス場所情報システムは、奈良県の観光ホスピタリティを高めるツールとして、また、平城遷都1300年記念事業での活用に向けて、大いに期待している。
- ・現在、国土交通省と連携して検討委員会を立ち上げ、将来のシステムの構築に向けて取り組んでいる。
- ・来年、18年度には、秋の観光シーズンを目途に社会実験を行いたいと考えており、候補地としては、奈良公園周辺、平城京跡および西ノ京周辺を考えている。

### 【熊本県】

- ・熊本県は、ユニバーサルデザインを県政の理念に掲げて、積極的に取り組んでいるところで、その一環として、自律移動支援プロジェクトに取り組んでいきたいと考えている。
- ・平成18年1月12日に、熊本市内の熊本テレサにおきまして、ユビキタス技術を活用したユニバーサルデザイン社会の実現に向けてのシンポジウムを開催させていただく。
- ・熊本市の中心部の主要幹線道路の交差点において、公共交通機関からの乗りかえや公共交通施設への誘導等を支援をするためのシステムの実証実験について、国土交通省と協議しながら、現在、検討を行っている。
- ・自律移動支援プロジェクトに関する目的、取り組みなどを広く県民に理解していただくために、公共施設内にプロジェクトに関する展示コーナーの設置を検討しており、平成18年度に開催予定のユニバーサルデザイン全国大会の開催に合わせての整備を検討している。

### 【民間サポーター】

- ・ユニバーサル社会の実現に向け、研究会を立ち上げ、高アメニティ都市、インテリジェント国土の実現に向けたビジネスモデルの検討、港湾地域、テーマパークなどでの使い方の拡大について、5つのワークショップをつくり活動展開させていただいている。
- ・今後、これまでの成果をもとにして、国土交通省、地方自治体の連携をお願いしながら、具体的な都市を対象とし、民間の立場からモデルケースを行う予定。

#### 【民間サポーター】

- ・今般、坂村委員長のご指導のもと、ユビキタス・ネットワーク研究所のご協力、ご支援をいただきながら、12月開始目途で、新宿区内において ucode を活用した「ユビキタス情報配信サービス」の社会実験を実施予定。
- ・新宿区主導のもと、広く商店街の皆様にもご参加いただき、民間レベルでのビジネスモデルの構築、並びに実運用の中での有効性、収益性を評価したいと考えている。

#### 【遠藤政策調整官】

- ・委員の皆様からいただいたご意見については、本年の今後の実験、あるいは技術仕様書の策定、それから来年度以降の取り組みに活かしていきたい。
- ・本システムの実用化に向けた社会制度の設計も視野に入れながら、今年度、来年度の展開を行っていきたい。
- ・使ってもらえるサービスをいかに実現するかということが重要であり、特に、これまでに増してコンテンツが重要ではないかと考えている。
- ・IT技術は日進月歩なので、できるだけ速やかに実用化に向けて近づけていきたい。

以 上